

花巻リノベーションまちづくり 構想策定 会議を開催！

オンライン

視聴無料

市では、将来を担う世代が「住んで働いて遊ぶ（学ぶ）」ことができる、魅力的で持続性の高いまちを担い手と一緒に作っていくため、リノベーションまちづくり構想を作ります。これに向け有識者や実践者を交えた策定会議を公開で開催します（感染症対策のため、オンラインで開催）一般の方々も視聴・質疑できますので、まちづくりに興味のある方や花巻のまちが大好きな方、一緒に盛り上げていきたい方などぜひご参加ください！（今年度全2回開催予定、そのうちの1回目です）。

1 開催日時

【第3回】令和2年10月23日（金）
17時30分から（90分程度）

ディスカッションテーマ：

「まちのビジョン-私達の日常の焦点」

2 視聴方法 zoomによるオンライン視聴

3 参加料 **無料**（どなたでも視聴できます。）

4 定員 **50名程度**

5 申込方法

10/22正午までに市ホームページの専用フォーム
またはお電話で申込みください。

・定員になり次第受付を締め切ります。



6 その他・会議中の映像、音声・発言内容は記録・公開されます。
・会議進行の妨げとなるような行為は行わないでください。

申込・問合せ先

花巻市建設部都市政策課都市再生室（41-3557 内線565 担当 伊藤）

花巻市

「リノベーションまちづくり」とは、まちに存在する遊休不動産を新しい使い方で活用し、エリア全体の活力を創出しようという取組です。

～花巻の未来を自らの手でつくる～

まちの未来にむけて、私たちができることは何だろう。

まちを、人を、未来に住み継いでいくことは私たちにしかできない。

これまでもこれからも、まちをつくるのは自分自身です。

自らの手の中にある未来を見つめ、一緒に踏み出してみませんか。

コーディネーター：青木 純（あおきじゅん）

（株）まめくらし 代表取締役/（株）nest 代表取締役/（株）都電家守舎 代表取締役

（株）北九州家守舎 取締役/（株）リノベリング 取締役/

（株）タンガテーブル 取締役/（株）ルーヴィス 取締役

東京都生まれ。日本の賃貸文化を変革したカスタマイズ賃貸で新しい市場を創造し、経産省「平成26年度先進的なリフォーム事業者表彰」受賞。グッドデザイン賞受賞の「青豆ハウス」や、JR東日本都市開発と共に取組む「高円寺アパートメント」では住人と共に共同住宅を運営。主宰する「大家の学校」で愛ある大家の育成にも取組む。生まれ育った豊島区では都電家守舎の代表として遊休不動産の転貸事業や飲食事業「都電テーブル」を展開。「南池袋公園」など公共空間活用も民間主導の公民連携で実践する。全国展開する民間主体のまちづくり事業として注目を集めるリノベーションスクールには2013年から参画。



コーディネーター：山崎 満広（やまざきみつひろ）

（一社）クリエイティブシティラボ代表理事/（株）LOCAL DIVER ディレクター/つくば市アドバイザー 他

1975年生まれ。茨城県出身。95年度米、南ミシシッピ大学大学院修了後、建設会社、コンサルティング会社、サンアントニオ経済開発財団、ポートランド市開発局などに勤務し、全米各地で都市開発や経営企画に関わる。2017年にコンサルタントとして独立。創造的で持続可能な社会の実現を目指し、国や文化の枠を超え産学官民を繋ぎ、様々な問題解決事業の企画に従事。2019年に帰国。つくば市まちづくりアドバイザー、横浜国立大学客員教授、ziba design国際戦略ディレクターなどを兼務。著書に『ポートランドー世界で一番住みたい街をつくる』、『ポートランド・メイカーズ クリエイティブコミュニティのつくり方』（学芸出版社）

これまでの公開会議の内容

令和元年度に2回開催した公開会議では以下のテーマについて事例検討を行いました。

【第1回】福祉と建築(2019.10.23)

細谷 拓真（ほそやたくま）

医師：横手市医師会理事/横手市観光協会理事 他

“人生100年時代、病気よりも障がいへの対応を求められる。どんな状況の人でも地域やまちに緩くつながっている「社会的処方」の考えが官民ともに重要。”



竹内 昌義（たけうちまさよし）

建築家：みかんぐみ共同主宰/東北芸術工科大学教授 他

“消費エネルギーが大きい建物ほどヒートショックや慢性疾患、CO2排出、経済流失を誘引している。待たなしの地域再生と地球環境。これらを複合的に解決する「住まい」がある。”

【第2回】子育てと歩車共存(2020.1.14)

丑田 俊輔（うしだしゅんすけ）

ハバタク株式会社 代表取締役

“一見不便な田舎町、町民挙げて建てた小学校がまちの要、学校帰りの子供達がまちで遊び、傍らに大人がいる。車両も歩行者も通りを使い、緩やかな共有のなかで、子育てと事業活動が共存できる方法がある。”



西村 浩（にしむらひろし）

建築家・クリエイティブディレクター：株式会社ワークヴィジョンズ 他

“コンパクトシティ転換は100年単位。それまで文化的・経済的に地域を持続させる道のりには、公的空間（駐車場・道路、川、公園）と建物の境が「潮目」となる、そこに多様で豊かな風景を作り出せる。”